

2025／11／16 津高東京同窓会「運営委員会」記録

日 時 2025 年(令和 7 年)11 月 16 日 13 : 30～14 : 30
場 所 品川区・品川第一区民集会所(第 1 集会室)
出席者 昭 45 年卒 奈良谷弘
昭 47 年卒 今北 理
昭 48 年卒 菊谷博之
昭 51 年卒 佐藤康子、谷本智彦、坪香かよ子、中村智子
昭 52 年卒 正岡文人
昭 53 年卒 石橋万樹、北口久乃、小柴良介、武 行美、田中紀美子、
富田幸子
昭 54 年卒 藤波 晃、山崎浩幸、渡邊喜久
昭 62 年卒 坂本浩一、永橋信隆、吉村かつら、勝美仁彦、 白木光彦
昭 63 年卒 大塚真弓、倉田 徹、ケスラー理世
平 01 年卒 鈴木かおり
令 05 年卒 山村 朋 杉下ほのか
事務局 西村修一、吉田万里子、中川法子、田中成幸、伊藤俊一、
神戸洋史、森田和久、清水徹

(以上、敬称略)

第 1．会長挨拶

西村会長から、各地区の同窓会および総会申告パーティーの活動報告がなされた。

- ・東京同窓会 (9/14)：196 名が参加し、盛会であった。
- ・名古屋同窓会 (10/18)：約 100 名が参加し、クイズ企画で盛り上がった。
- ・大阪同窓会 (11/9)：104 名が参加。

現役学生が 10 名ほど参加し、今までにない集まりとなった。地元の名産品販売や大阪万博に関する講演も行われた。

第 2．議題

1．案内状の送付と出席者の状況について

- (1) 出席者は約 200 名で推移。そのうち約 3 割 (60 名) は輪番幹事による動

員であり、その役割の重要性が確認された。また、出席者の年齢層は 60 代・70 代が約 65%を占め、高齢化が課題として認識された。

(2) 案内状の送付状況：

郵送での案内は年々減少し約 1,300 通を送付したが、コスト（約 15 万円）に対して、出席者は 24 名にとどまり、費用対効果は低い。しかし、他方、郵送での案内に対する寄付者が多いため、当面は郵送による案内も継続する方針。

メールでの案内は増加しており、郵送とほぼ同数になっている。また、今年から導入した QR コードによる返信も継続する。

2. 会計報告

総会申告パーティー収支について、今年度は 24 万 7 千円の黒字となった（昨年度は 27 万 2 千円の黒字）。

事務局運営会計：寄付金は昨年より約 8 万円増加し、66 万 4 千円となった。

案内状の郵送費は、郵便料金の値上げにより、発送数が減少したにもかかわらず増加した。

繰越金：次年度への繰越予定額は約 210 万円台。天変地異などによる万が一のキャンセル料（約 87 万円）に備え、ある程度の繰越金は必要であるとの認識が共有されました。

3. 輪番幹事からの報告と運営改善

(1) 活動成果

輪番幹事をきっかけに同期会が開催され、旧交を温める良い機会となった。同期会開催のための郵送費は事務局が負担することにしており、積極的な活用が推奨された。

(2) 運営の改善点

ステージ設置：演台を組んだステージを設置し（費用 6,600 円）、好評だったため今後も継続が望ましい。

(3) 係の分担

記録係・写真係を専任で配置し、効率的な運営と記録保存を実現した。

(4) 協賛企業の増加

協賛が 2 社から 4 社に増加した（サントリー、おやつカンパニー）。

(5) 報告書冊子の改善

報告書冊子を印刷会社への発注に変更し、コストを抑えつつ見栄えを向上させた（200 部で 1 万 5 千円）。

この報告書は他地区の同窓会関係者からも高く評価された。

4. 今後の運営に関する課題と検討事項

(1) 学生の参加費について

学生の参加促進は重要だが、参加費を無料にすると現役世代の負担が増える。来年度も無料を維持するか、予算との兼ね合いで検討が必要。

(2) 輪番幹事の選出と若返について

来年度は 55 年卒と 64 年卒（平成元年卒）が担当する。

コロナ禍の影響で、若返りを図るため、2 学年合同での幹事担当が続いている。

幹事の年齢差を従来の 12 年から 9 年に短縮することで、恩師が存命中に参加できるメリットがある一方、現役世代の多忙さも考慮する必要がある。

(3) 新卒業生の連絡先確保：

新卒業生の連絡先が不足しているため、卒業時に各地区同窓会へのメールアドレス登録を促す QR コードを配布する案が提案された。

(4) 報告書の郵送について財政状況を鑑み、寄付者のうちパーティー参加者への郵送は不要ではないかとの意見が出たが、寄付者への送付義務があるため、見直しにはウェブサイトの文言変更などが必要となるとの指摘もなされた。

(5) 事務局の体制について

輪番幹事経験者から事務局へ協力者を出す慣習がコロナ禍で途絶えているため、次期幹事会へのオブザーバー参加など、協力を仰いでいく。

5. その他

- ・ ホームページのトップ原稿と報告書を速やかに更新する。
- ・ 来年度の輪番幹事会を決定された日程に沿って進める。
- ・ 次期輪番幹事担当者（特に 55 年卒）を集める。

- ・ 輪番幹事経験者から事務局への協力者を募る。
- ・ 新卒業生の連絡先を確保するため、QR コード活用の実現可能性を他地区とも調整する。

以上